

# 施策評価シート

幹事部局

環境生活部

<b>施策の名称</b>	VI-2-(2) 文化芸術の振興
<b>施策の目的</b>	広く県民が文化・芸術を鑑賞し、参加し、創造しながら、生き生きと心豊かに暮らせる地域をつくれます。
<b>施策の現状 に対する評価</b>	<p>①(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度は新型コロナの感染拡大の影響を受け、無観客開催や一部事業の中止により、県民文化祭の参加者数は例年に比べ少なく目標を下回った。そのような中で、文芸フェスタではインターネットによる配信を行うなど新しい取組も行い、鑑賞機会の拡大を図った。文芸作品公募では学校からの団体応募が増加し、ジュニアの部への応募が昨年度の1.4倍となった。また、県内で活動する文化芸術団体を学校等に派遣して、ワークショップや公演を行う「文化芸術次世代育成支援事業」は、子供たちのコミュニケーション力や情緒の発育に効果が高いことが学校等から高い評価を受けた。当該事業については今後、教育的視点に加えて文化的視点での成果の見える化が課題として挙げられる。青少年の文化活動の推進については、青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の件数が、前年度の33件から57件になるなど、文化芸術次世代育成支援等事業等の継続の成果が感じられる。</li> </ul> <p>②(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の機能強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立文化施設の入館者数は、コロナ禍の影響で目標を下回ったが、換気や消毒の徹底等の感染対策を実施し、安心して利用できる環境を整備した。</li> <li>・県立美術館では、R3年6月からR4年5月末まで大規模改修工事により休館していたが、休館中に出張ワークショップ等を実施するなど、幅広い層に向けてPRを強化した。</li> <li>・芸術文化センターにおいては、新型コロナの感染拡大防止のため事業の一部が中止となったが、コロナ禍での事業実施を通じ、感染対策を講じながら事業を実施するノウハウが蓄積され、それらを他施設と分かちあうことで地域文化活動実施の後押しにつながった。</li> <li>・県民会館においては、イベントの中止等が生じたが、芸術家派遣事業や公共ホール連携事業など、文化芸術の鑑賞、育成、創造の機会が失われないよう取り組んだ。</li> </ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗ウイルスコーティング等の感染対策を充実し、安心して利用できる環境整備を実施した。</li> </ul>
<b>今後の取組 の方向性</b>	<p>①(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民文化祭への参加については、文化芸術次世代育成支援事業のワークショップの成果作品の県展出品、県展の受賞作品の「島根文芸」への表紙起用など、各事業が連携してPRし、より多くの県民が参加できるように、各文化芸術団体等と協力しながら進めていく。</li> <li>・青少年の文化活動推進については、学校・地域・文化芸術団体等と連携して、児童・生徒が多様な文化芸術に触れる機会等を充実させ、文化活動への意欲・関心を高めていく。また、高校生の文化活動において、一層の活性化を図るための効果的な支援方法や、コロナ禍においても安心して大会に参加出来るための方策を検討する。</li> </ul> <p>②(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の連携強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立美術館では、貴重な収蔵品などを活用し、親子向けの企画や館内外での展示関連のイベントなどを充実させる。また、子ども・親子に向けたサービス等を拡充していることをPRすることにより親子客の利用増を図る。石見美術館では、ファッション等、特色あるコレクションを活用した企画、複合施設の特性を生かしたイベントの開催や情報発信の工夫などを行う。いずれもアフターコロナを見据えた施設の魅力向上と、配信等を活用したPRの強化を図る。</li> <li>・県民会館、いわみ芸術劇場は、感染拡大防止を引き続き充実させ、安心して利用してもらえる環境整備を図る。また館内でのホールイベントやワークショップの充実を図るとともに、公立文化施設・教育施設を活用したアウトリーチ活動(関係団体等と連携したイベント等の実施)を積極的に展開し、県民の文化芸術事業への参加を促進していく。</li> </ul>



## 事務事業の一覧

施策の名称		VI-2-(2) 文化芸術の振興				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	創造的な文化活動推進事業	文化活動を行う県民	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する	16,505	25,942	文化国際課
2	文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業	文化芸術活動を行う県民	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。	170	170	文化国際課
3	芸術・文化の情報発信・収集事業	市町村、文化団体、文化施設、県民等	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る	10,015	9,660	文化国際課
4	県立美術館事業	県民および来館者	所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する	346,399	523,383	文化国際課
5	芸術文化センター事業	県民及び来館者	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる	467,108	501,631	文化国際課
6	島根県民会館事業	県民及び文化芸術団体など	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる	281,463	388,718	文化国際課
7	青少年文化活動推進事業	児童・生徒	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。	8,511	8,668	社会教育課
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		創造的な文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	文化活動を行う県民	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する		16,505	25,942
			うち一般財源 (千円)	8,009	7,892
令和4年度の取組内容		県民文化祭の開催や次世代育成支援等、県民が企画段階から参加し創り上げる島根の芸術文化の事業を行う。			
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		派遣分野に新たなジャンルの追加			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類			
1	県民文化祭参加者数【当該年度4月～3月】	目標値		34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	人	単年度値			
		実績値	32,620.0	17,840.0	24,782.0								
		達成率	—	52.5	72.9	—	—	—			%		
2		目標値											
		実績値											
		達成率	—	—	—	—	—	—			%		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		【各県民文化祭主催事業参加者数】		①文化芸術次世代育成支援事業 4,562 (単位:人)		②県総合美術展(県展)開催 5,838		③特別参加展(硬筆アート展)開催 678		④文芸作品募集及び『島根文芸』発行 1,134		⑤しまね文芸フェスタ開催(無観客) 154	

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	「島根県文化芸術振興条例」の制定を踏まえて、文化芸術の裾野の拡大、次世代育成に主眼をおき、県民文化祭への若者の参加拡大や文化芸術の担い手の育成などの取り組みを推進している。平成24年度から開始した文化芸術団体が学校などに向いて実技指導・合同公演を行う文化芸術次世代育成支援事業は、各実施団体と連携して多くの学校の参加につながっている。 令和3年度は、年明けから感染者が急増した新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止となった公演もあった。しかしながら、感染症対策を講じた上で、県東部、県西部、隠岐と県内全域でワークショップ、公演を開催し、参加者から好評を博した。
課題分析	①課題	・参加者や事業が固定化・高齢化し、新たな取組が少ない傾向にある。 ・文化芸術次世代育成支援事業について、県内文化団体の参加や学校からの実施希望は年々増えているが、国からの助成金の額により事業規模が左右され、要望に応えられない場合があるほか、事業の安定的な実施の妨げとなっている。
	②原因	・主催事業について、県展、文芸作品公募への小中高校生の参加が少ない。 ・県民文化祭の知名度が低く、共催事業になることのメリット感があまりない。 ・文化芸術次世代育成支援事業への助成を受けている国の補助事業の対象事業の内容が変更され、採択されにくい状況である。
	③方向性	・県民文化祭については、幅広い県民が参加できる開かれた文化祭にすることを目指し、各事業間の連携を図り、積極的なPRに努める。 ・アフターコロナを見据えて県民文化祭の内容やあり方を見直し、文化芸術団体の自発的な取組に繋げる。 ・共催事業については、市町村文化協会等への参加の働きかけ等を行うと共に、文化ファンドとの情報共有等を活用して新規参加団体の掘り起こしを図る。 ・文化芸術次世代育成支援事業については、国の助成金以外の財源の活用も検討し、安定的な事業の実施に努める。

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業				
目的	誰(何)を対象として	文化芸術活動を行う県民	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額	
	どうい状態を目指すのか	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。		170	170	
			うち一般財源 (千円)	170	170	
令和4年度の取組内容	本県の文化の発展に貢献することが期待され、活動を奨励するにふさわしいものに奨励賞を贈り、これを顕彰する。					
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・県内の文化活動の動向を注視し、文化関係者等からの情報収集に努める。 ・奨励賞の趣旨を鑑み、比較的低い年齢層の推薦を引き続き募る。					
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策		
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	島根県文化奨励賞の表彰件数【当該年度3月時点】	目標値		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	件	単年度 値
		実績値	2.0	2.0	2.0					
		達成率	—	100.0	100.0	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・本県文化振興への貢献が期待できる活動を行っているものを平成2年度から毎年1～2名表彰しており、令和3年度までに63個人・団体が受賞。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・受賞について新聞等でも報道され、文化奨励賞の存在や受賞団体の活動を周知することができた。 ・県西部及び隠岐の団体を表彰できた。
課題分析	① 課題	・表彰対象者として推薦される件数が減少している。
	② 原因	・次世代の活動等を十分に把握できていない。 ・表彰制度の周知が十分にできていない。
	③ 方向性	・新聞・情報誌・TVなどからも情報収集に努め、文化団体や若手人材等の活動を把握していく。 ・県の広報媒体等も活用して受賞者・団体の活動を紹介するなど、賞の認知度を高める取組を進める。 ・市町村・団体等に引き続き積極的な推薦を働きかける。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		芸術・文化の情報発信・収集事業			
目的	誰(何)を対象として	市町村、文化団体、文化施設、県民等	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る		10,015	9,660
			うち一般財源 (千円)	0	0
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国等の芸術文化に対する助成情報等を収集し、速やかに、かつ確認しやすい形で、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供する。</li> <li>・助成を希望する事案について、市町村等から情報提供を受け、申請の可否、内容等の相談に乗る。</li> <li>・各種助成事業の活用状況(申請・採択件数等)を情報提供するなど、今後の取組の参考にしてもらい、助成事業の有効活用に努める。</li> </ul>				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	なし				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	(一財)地域創造ほか主要助成金等への県内申請件数【当該年度4月～3月】	目標値		43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	件	単年度 値
		実績値	38.0	32.0	32.0					
		達成率	—	74.5	74.5	—	—			
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—			
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国等の助成情報等は、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供している。</li> <li>・地域創造の助成金申請は、平成22年度以降、毎年度、平均4件程度の申請がある。</li> <li>・様々な助成事業を活用し、芸術文化に関わる人材や団体の育成・支援の取組が行われている。(R3申請実績～自治総合センター:1件、エネルギー文化・スポーツ財団16件ほか)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種助成事業に関する情報を市町村や文化団体等に周知することで、中山間地域や離島等も含めた県内各地で文化・芸術的な活動が実施され、県民が芸術文化を鑑賞し、自ら参加する機会が増加している。</li> <li>・県民が生の芸術文化に触れることで、より興味・関心を高め、自主的・創造的な活動に繋がっている。</li> </ul>
課題分析	① 課題	市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に国や各種団体の助成制度の情報提供をしているが、活用が一部に限定される傾向があり、広がりが見られない。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	誰でも閲覧することができる島根県公式ホームページの文化振興のページに制度の詳細な情報やリンクを掲載することで、現在各団体へ所属していない方や文化・芸術的な活動に興味がある方(団体)へ情報を発信することができ、県内の芸術文化活動が広がるが見込まれる。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		県立美術館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民および来館者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する		346,399	523,383
令和4年度の取組内容	所蔵コレクションの価値の高さと次世代顧客である子ども・親子の重要性を再認識し、新たな取り組みを行う。毎日10:00～12:00を「かぞくの時間」として子どもと一緒に作品鑑賞を楽しむ環境づくりを行い、また、リニューアルしたキッズライブラリーも活用することで親子向けの利用促進を図る。島根創生を進めるための新規・拡充施策として「北斎プロジェクト」をスタートし、所蔵する北斎コレクションについて適正な整理・保存や展示の魅力アップ、周知広報等を行う。魅力ある企画展についても引き続き実施し、企画展・コレクション展両方で集客できる美術館を目指す。				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	北斎コレクションを始め優れた県美コレクションの認知度を上げるため、PR手法を見直し、積極的なPRを行うこととした。かぞくの時間を拡充し、子供たちが美術館及び美術鑑賞に親しめるような環境整備を行った。				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】※R3年度は施設整備を実施	目標値		250,000.0	20,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	人	単年度値
		実績値	268,616.0	103,564.0	15,655.0					
		達成率	—	41.5	78.3	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修のため、R3年度の開館期間は4/1～5/31の2ヶ月間であった。(企画展は1本のみ、4/2～5/24開催)</li> <li>・感染症対策として日時指定予約システムを採用するとともに、入館口の制限を行った。</li> <li>・企画展は目標7,700人に対して実績7,603人であった。(目標進捗率約99%)</li> <li>・館外におけるワークショップの実施(計73回、のべ参加者数5,859名)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休館期間中にショッピングモール・公共施設・児童クラブ等で北斎コレクション出張ワークショップ、アウトリーチ活動を数多く実施し、これまで美術館と接点が無かった層に対するPRの強化に繋がっている。(ワークショップ等は計73回実施、参加者はのべ5,859名)</li> <li>・公式ホームページをリニューアルし、所蔵コレクションの魅力美しい画像で紹介することにより、コレクション周知に努めている。</li> <li>・新たに3点の美術品(近世絵画)を購入したほか、作品14点と資料2点の寄贈の受け入れにより、コレクションの充実を図っている。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点</li> <li>・休館前のコレクション展の観覧率は企画展と比較して低い(観覧率=観覧者数÷入館者数 : 企画展48.6%、コレクション展28.4%)</li> <li>・R3年度の企画展では来館者は50代以上が約8割を占めており、40代以下の来館者が少ない。</li> <li>・コロナ禍前、長期休館前の来館者数への回復が見通せない。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクションに対する県民の認知度が低い。</li> <li>・常設展示室(コレクション展示)への誘導、PRが不足している。</li> <li>・長引くコロナ禍により、県民の来訪意欲の低下と県外からの集客に向けた積極的なPRができていない。</li> <li>・開館からの年数経過で美術館自体の目新しさ、来館につながるきっかけが少なくなっている。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵コレクション(特に北斎作品)の価値の高さと魅力について広報を強化する。</li> <li>・企画展観覧者(1階)を常設展示室(2階)へ誘導するため、館内設備(サイネージ等)を積極的に活用する。</li> <li>・子ども・親子に向けた取組やサービスが拡充されていることをPRすることにより親子客の利用増を図る。</li> <li>・観光部局との連携により、アフターコロナを見据えた誘客対策を実施する。(北斎コレクションをフックとした集客対策、県外向けPR)</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		芸術文化センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる		467,108	501,631
			うち一般財源 (千円)	208,730	277,848
令和4年度の取組内容	特定天井改修等の工事のためホール等一部の施設が休館となっているが、美術館においては引き続き地域住民及び観光客等の集客が図られるよう、魅力ある事業を実施する。				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・アウトリーチ事業や、美術館と劇場の共同企画事業であるミュージアの継続によるホール休館影響の軽減 ・改修工事の進捗状況発信の実施				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】※R3～4年度は施設整備の予定	目標値		350,000.0	210,000.0	70,000.0	350,000.0	350,000.0	人	単年度値
		実績値	368,334.0	155,515.0	195,206.0					
		達成率	—	44.5	93.0	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館の企画展は4本実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により県外からの集客が見込めない時期もあり、苦戦を強いられた。</li> <li>・指定管理者による文化事業でも、19事業がコロナ影響により延期もしくは中止となった。</li> <li>・一方、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、入館者数目標は90%を超える達成率となった。</li> <li>・ボランティア団体と協働して運営を実施した。</li> <li>・島根県障がい者文化芸術活動支援センター「アートベースしまねいろ」との協働に取り組んだ。</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者に安心して過ごしてもらえるよう、感染予防対策を徹底し、有事に備えた対応訓練を行った。</li> <li>・コロナ禍の中での事業実施を通じ、感染症対策をしつつ事業を実施するノウハウが蓄積され、それらを館外事業で他施設とも分かち合うことで地域文化活動実施の後押しとなっている。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏始め都市部からの来客が不安定な状況となっている。</li> <li>・美術館のコレクションの充実が進んでおらず、施設の魅力化や優れた美術品を後世に引き継ぐ使命が阻害されている。</li> <li>・文化芸術活動に取り組む人々の活動の停滞が懸念される。</li> <li>・修繕が必要な場所や設備等がかなり多く、また修繕規模も大きくなっている。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により不定期に人流の制限や自粛の影響を受けてしまう。</li> <li>・限られた予算の中で、集客が多く見込める企画展を継続的に開催することが難しい。</li> <li>・美術品等取得基金について、買い戻しが事実上凍結されているため、新たな美術品の購入ができない。</li> <li>・コロナ禍によりコンサート等の発表機会の中止や延期が繰り返され、文化芸術活動に取り組む人々のモチベーション維持に支障がある。</li> <li>・開館から16年が経過し、施設、設備の性能劣化や老朽化が進行している。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年代にアピールできる魅力的な企画展を実施するため、指定管理者と連携し、観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していく。</li> <li>・美術品等取得基金の買戻し制度の充実等、好機に価値の高い美術品を取得できるよう環境改善を図る。</li> <li>・文化芸術活動と感染対策の両立ノウハウを館外活動でも共有し、文化活動の継続を支援する。</li> <li>・来館者の安全・快適性を確保し、魅力的な公演の誘致に繋ぐことのできる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携し、計画的に修繕や設備の更新等を行う。</li> </ul>

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		島根県民会館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び文化芸術団体など	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる		281,463	388,718
			うち一般財源 (千円)	210,980	231,705
令和4年度の取組内容	・文化事業 鑑賞事業(館内)劇団四季公演、浜田真理子コンサートほか(館外)地域ステージ、今福座公演ほか 育成事業(館内)舞台芸術アカデミー、作詞ワークショップほか (館外)インクルーシブシアタープロジェクトアウトリーチプログラム、文化芸術による子どもの育成事業ほか 創造事業(館内)インクルーシブ・シアター・プロジェクト、県民オペラほか (館外)ミニオペラ隠岐公演ほか ・文化芸術活動支援 ・広報・利用促進 ・利用者サービス向上				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	コロナウイルス感染症により利用者数が低迷する中、抗ウイルス・抗菌コーティングを実施したほか、衛生用機材の充実や換気設備の整備等により、安心して利用できる環境整備を実施した。				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県民会館大・中ホール利用者数【当該年度4月～3月】	目標値		170,000.0	102,000.0	170,000.0	170,000.0	170,000.0	人	単年度値
		実績値	135,170.0	34,542.0	84,645.0					
		達成率	—	20.4	83.0	—	—	—		
2	県民会館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		450,000.0	270,000.0	450,000.0	450,000.0	450,000.0	人	単年度値
		実績値	423,066.0	174,425.0	221,856.0					
		達成率	—	38.8	82.2	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・指定管理者により、公演やアウトリーチ方式の育成事業等の文化事業を実施した。 ・令和3、4年度の2か年計画で進めている『県オペラ2023「ラ・ボエーム」』は本県出身の声楽家や地元オーケストラ、児童合唱団など多くの県民が参加する体制づくりを実施した。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・学校への芸術家派遣事業や公共ホール連携事業、舞台技術の研修・セミナーなど、関係機関と調整しながら文化芸術の鑑賞・育成・創造の機会が失われないよう積極的に取り組んだ。 ・新型コロナウイルス対策として抗ウイルスコーティングを実施したほか、衛生用品・設備の整備により来館者が安心・安全に利用いただける環境を整備した。
課題分析	① 課題	・新型コロナウイルス感染拡大によるイベントの中止やホール・会議室利用のキャンセルなどにより集客・施設利用に影響が生じている。 ・地域ステージ等の観客数の伸び悩み。 ・文化芸術活動の担い手不足。
	② 原因	・施設の老朽化、舞台装置等の経年による陳腐化。 ・人口減少、文化芸術活動の担い手の高齢化。
	③ 方向性	・照明や吊り物等、舞台設備の計画的な改修や、充実した音響設備や客席とステージが近いことによる良さを生かした企画の検討。 ・館内のバリアフリー化による高齢者、障がい者等が利用しやすい環境を整備。 ・鑑賞機会の確保やワークショップの実施等による次世代育成への支援。

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

社会教育課

事務事業の名称		青少年文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	児童・生徒	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。		8,511	8,668
			うち一般財源 (千円)	8,511	8,668
令和4年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の文化部活動を活性化するため、島根県高等学校文化連盟(県高文連)に対し支援を行う。</li> <li>・全国大会に出場する部活動の激励や、全国規模の大会等で入賞した児童・生徒を顕彰する。</li> <li>・文化庁や文化団体の各種事業を活用し、児童・生徒に対して優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。</li> </ul>			
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・顕彰の推薦を促進するため、顕彰の対象の見直しを行った。			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	高校における生徒の文化部活動への参加率(県高文連加盟校)【当該年度4月～3月】	目標値		30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	%	単年度 値
		実績値	29.6	32.4	27.4					
		達成率	—	108.0	91.4	—	—	—		
2	青少年芸術文化表彰及び青少年児童生徒学芸顕彰の被表彰団体(個人)件数【当該年度3月末時点】	目標値		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	件数	単年度 値
		実績値	95.0	37.0	55.0					
		達成率	—	52.9	78.6	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の高校生生徒数が減少傾向 R1:5,308人/17,902人⇒ R2:4,976人/15,334人⇒ R3:4,572人/16,672人</li> <li>【県高文連加盟校における参加率】 R1:29.6%、R2:32.4%、R3:27.4%</li> <li>・青少年芸術文化表彰(知事表彰)・児童生徒学芸顕彰(教育長顕彰)件数</li> <li>【知事表彰】 R3:第1期 3団体 第2期:2個人</li> <li>【教育長顕彰】 R3:第1期 10団体 14個人 2指導者 第2期:3団体 21個人</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化が進む中において、高校生の文化活動参加率は増減を繰り返しながら推移している。</li> <li>・芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の推薦件数は、前年度よりも18件増加した。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の文化部活動の魅力が、県民に十分に伝わっていない。</li> <li>・表彰及び顕彰制度への推薦件数が少ない。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の文化部活動の発表の機会が少ない。</li> <li>・近年、文化・芸術分野における全国大会が多様化し、各学校が推薦するに当たって、該当する大会や成績・賞位の範囲が明確になっていない。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の文化部活動活性化のため、引き続き多様な方法で発表する機会を設ける。</li> <li>・より多くの児童・生徒を表彰・顕彰するため、全国大会に関する調査を行い、推薦に該当する大会や成績・賞位の見直しを行う。</li> </ul>